

【ポスター発表】

認知症対応型通所介護施設におけるアロマオイルの効果と課題

— 改訂版・長谷川式認知症スケールによる調査を基に —

○ 関西学院 聖和短期大学 立花 直樹 (007093)

キーワード：認知症、アロマオイル、改訂版・長谷川式認知症スケール (HDS-R)

1. 研究背景と目的

これまでに認知症予防や認知症の改善効果を目的に開発された薬剤は副作用があり、日常生活の中で安全に使用できる対症療法が求められている。国立情報学研究所の論文検索サイト CiNii で論文や報告書等を検索(2020年3月10日現在)しても、医療機関における調査や不眠等に対する効果検証の論文以外、福祉関係の施設・事業所や一般家庭において認知症患者にアロマを活用し、簡便に認知機能が測定できる手法で効果検証した論文は存在しなかった¹⁾。多くの認知症利用者が利用する福祉施設・事業所等で効果を簡便に計測・検証が可能な方法が求められている。また、市販かつ高価でないアロマオイルで効果検証が確立できれば、全国の福祉施設に瀰漫し多くの高齢者の認知症進行の抑制・改善や、QOLの向上に役立てる可能性がある。

そこで「認知症に対する効果」が承認されてから約15年経ても重篤な副作用等の問題が発生していない「アロマオイル R(双還性モノテリペン・ティートリーオイル)」を Z 県 X 市内の認知症対応型通所介護施設(認知症対応型デイサービスセンター:以下、認知症デイ)を利用する認知症高齢者に日常的にアロマディフューザーを用いて吸気してもらい、「改訂版・長谷川式認知症スケール(以下、HDS-R)」を用いて認知症高齢者の認知機能を分析・考察し、市販のアロマオイルの認知症に対する効果を検証することを目的として研究を進めた。

2. 研究の視点および方法

- (1) 調査対象: Z 県 X 市内の A 認知症デイを利用する高齢者 11 名〔内訳:アルツハイマー型が 9 名,脳血管型が 1 名,レビー小体型が 1 名〕
- (2) 調査期間:2018 年 9 月～2019 年 10 月
- (3) 調査方法:A 認知症デイにおい高齢者 11 名(書面による事前承諾が可能な方)に対して 2018 年 9 月に 2 度のプレ計測を行い、各利用者におけるスコアの標準化を行った。本調査の 1 年間は、認知症高齢者 11 名がデイサービスセンターを利用した各月の初回利用時にスコアを一度のみ計測した。
- (4) 分析方法:各利用者のアロマ実施前と使用後の経過(各月)の平均表情スコアを比較する為、IBM SPSS Statistics ver.26.0 を用いて T 検定を行った。但し、11 名中入院等となった 4 名をデータから除外し、継続的に計測できた 7 名のみ分析した。

3. 倫理的配慮

調査、研究に当たっては、日本社会福祉学会の「研究倫理規程」に基づき配慮した。

A 認知症デイを運営する B 社会福祉法人で「安全性」「使用・中断の対応」「製品の取り扱い」「データ使用・管理」等のガイドラインの承認を得た上で、「アロマオイル R」を採用し、アロマの使用に当たっては、芳香に対する好悪感を事前に確認し利用者の承認を得た上で散布・噴霧した。

また、利用者本人・家族には調査に関して説明を行い、承諾を書面で得た。なお、計測したデータは、個人名が特定できないようコード化し、ID・PASS 管理のパソコンにて保存した。

4. 研究結果

1 年間の調査を通じて、アロマの芳香に嫌悪感を持ったケースや安全性に問題のあるケースはなかった。

(1)HDS-R 得点の上昇時期における平均値の分析

アロマを開始前(2018 年 9 月)から調査開始後 12 か月(2019 年 9 月)までの 1 年間で HDS-R 得点は利用者個々で多少の上下がありながらも相対的に下降していた(図 1)。しかし、調査実施前(2018 年 9 月)と調査実施後の各月の HDS-R 得点について、T 検定を実施した所、10 か月後(2019 年 7 月)までは有意差が見られた。ただし、調査実施前(2018 年 9 月)と調査実施 12 か月後(2019 年 9 月)の HDS-R 得点を比較すると「3.714」も減少しており、T 検

定を実施したところ有意差が見られた [$t = -3.378, df = 6, p < .05$].

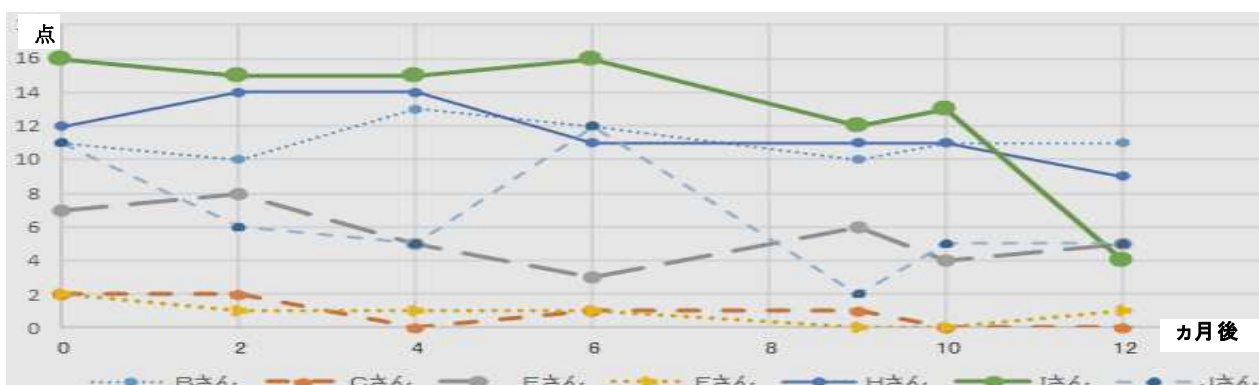


図 1 HDS-R の計測結果の推移 (縦軸:点数、横軸:経過月数)

(2) HDS-R 得点の上昇時期における平均値の分析

アロマの滴下数が少ない調査開始より 2 か月間は、HDS-R 得点は多少の増減を繰り返しながら 5 例が低下し 2 例が上昇していた。しかし、アロマを増量した実施開始 3 か月後以降、特に 4 例が一時的に HDS-R 得点の上昇し、実施開始 7 か月頃までは大幅な得点減少は見られなかった (図 1)。

一時的に上昇した利用者 7 人の「実施 4 か月後の HDS-R 得点」「実施 6 か月後の HDS-R 得点」「実施 9 か月後の HDS-R 得点」「実施 10 か月後の HDS-R 得点」を比較しても T 検定では有意差は見られなかった。

(3) HDS-R 得点の変動が特徴的な 2 グループにおける平均値の分析

アロマ実施前 (2018 年 9 月) とアロマ実施 12 か月後 (2019 年 9 月) の HDS-R 得点を比較すると、得点は上下を繰り返しながら徐々に減少し、1 年間で 4 点以上減少したケース (2 例: I・J) があった (図 1)。2 名について、実施前と 12 か月後の得点を比較すると「9.00」も減少していたが、T 検定では有意差は見られなかった。

一方でアロマ実施前 (2018 年 9 月下旬) と 12 か月後 (2019 年 9 月) の HDS-R 得点で 3 点以内の減少ケース (5 例: B・C・E・F・H) があった (図 1)。実施前と 12 か月後の HDS-R 得点に余り差がない 5 名について、得点を比較すると平均値で「1.60」しか減少していなかったが、T 検定を実施したところ有意差が見られた [$t = -3.138, df = 4, p < .05$].

5. 考察

認知症は時間の経過と共に、精神機能が低下し段階的に右肩下がりで表情が乏しくなったり鬱になったりする²⁾と言われている。しかし、アロマオイルを使用することで、極わずかではあったが、使用当初から HDS-R の得点が向上する利用者が存在した。また、アロマを増量することによって、個人差はあり多少の増減を繰り返すが、一部の認知症患者の HDS-R の得点の向上がみられた。これは、アロマの使用が、認知症高齢者にとって認知機能の改善や認知機能低下を緩和する可能性を示唆していると言える。特にアロマの使用量の増加による HDS-R の得点の向上は、アロマの効果を顕著に示唆するものと考えられる。

また、これまでの先行研究では、アロマが「アルツハイマー型」認知症患者の認知機能の効果が検証されてきたが、今回の調査では「脳血管型」及び「レビー小体型」の認知症患者への認知機能に対する効果の可能性が示唆された。

市販かつ高価でないアロマオイルを 1 年間使用した結果、安全性の問題や利用者の嫌悪感もないことから、全国の福祉施設においては医療的ケアに加えてアロマ利用が瀟漫することで、多くの高齢利用者の認知機能低下の予防・抑制・改善のみならず、QOL の向上に役立つ可能性がある。しかし、今回の調査ではどのような特徴がある認知症患者の精神機能改善に効果があるかを検証やどれ位のオイル量が適量か効果検証することはできなかった。

6. 文献

1) 国立情報学研究所「CiNii (学術情報ナビゲーター)」(2020.3.10 確認)
<https://tanba.jp/2019/04/page/6/>

2) 池田学 (2009) 「認知症」『高次脳機能研究』 p222-228
<https://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/cabinet/2018/decision0615.html>